



北本市は市制施行
40周年を迎えます

Grow 育てる 会議

市民が 考える 北本駅前の まちづくり



渡和由准教授をコーディネーターに迎え北本駅前のまちづくりについて議論する参加者

2月19日（土）に北本まちづくりキャラバンにて『育てる会議』が開催されました。育てる会議は、北本らしい“顔”の駅前づくりプロジェクト（通称：顔プロ）が今年度主催してきた『つくる会議』を発展させ、新しい西口駅前広場にできる多目的広場の活用を考えることを

きっかけに、市民による継続的なまちづくりへの参加やその仕組みの模索と、さらに具体的な実践をかねた検討の場として今後運営していく予定の会議です。今回は筑波大学の渡和由准教授をコーディネーターに迎え、駅前広場と人をどうやってつなげるのかといった議論が行

なわれました。当日は NPO 法人の代表、商店経営者、主婦、市役所職員、学生などが集まり、幅広い職業や立場の方が一つの大きなテーブルを取り囲み、約 2 時間の会議は、1 月 22 日に行なわれたスーパーつかう会議のおさらい、まちづくりプロジェクトの事例紹介、

来年度の育てる会議にむけた参加者によるディスカッションという 3 部構成で進められ、会議後にはその場で懇親会が行なわれました。会議の後半では、次回の育てる会議の位置づけについて話し合わせ、場所や時間、会議の名前などが議題に上がりました。



広場を 育てる市民 市民を 育てる広場

や、単に広場の運営を考えるのではなく、市民自身が育っていくような、勉強会のような在り方も必要だという考えが示されました。

このように広場と人をいかに結びつけ、相乗効果的な関係性を築き高められるかが重要であることがわかってきました。そのために、参加が可能な市民団体や市民への PR や、具体的な収支の想定、具体的な使用上のルールなど、今後の課題や宿題が明確になってきました。

この日は、冒頭で 1 月のスーパーつかう会議で参加者から出された意見を振りかえり、これからの育てる会議では一体何について議論するのかということから議論をはじめました。

参加者からは駅前広場をつかうためのルールや場づくりが重要なのではないか、という意見



上：参考事例の冊子を読む参加者

左下：まちづくりの参考事例
高松市の再開発事業イメージパース

中下：まちづくりの参考事例
筑波大学 ADP2010 ウェブサイト



駅前広場と 市民を つなげる 仕組み

会議の中盤には、アートの視点から学生が病院を改修するという筑波大学の事例が紹介された。筑波大の大学院生によるプレゼンテーションでは、

1. 活動の拠点を持つこと
2. 活動の目標と枠組みを整理し、共有すること
3. 記録に残すこと

というプロジェクトを継続させるための工夫が紹介にされました。すると会場からは、北本の駅前広場のつかい方を考える場合も、活動の拠点や運営のための使用基準があるのではという議論がおり、北本ではどんな仕組みが有効かという問いには、キオスクなどの目に見えるものであったり、経済的な利益があるものがわかりやすいといった意見が出されました。その一方で、活動をする人の自己実現や広場を訪れた人の楽しみが出来るといった、お金の利益だけでは量れない利益を交換し、循環させる仕組みが必要という意見も出されました。

『市民が広場 を育てる会 議(仮)』を 4月に開催

会議の終盤では、来年度の「育てる会議」にむけた議論が行なわれました。まず、参加者から「育てる会議」という名前は誰が何を育てるのか分かりづらいため、主体をはっきりさせるという意見が出されました。そこで、育てる主体と対象を示した「市民が広場を育てる会議」と

議論する渡和由准教授(1番左)と参加者
いう会議の名前が良いのではないかとの意見を頂きました。

さらに、今後の育てる会議の展開としては、4月の後半に第1回「市民が広場を育てる会議(仮)」と広場をつかうための勉強会が開かれることが決まり、市民から参加者を募集することとなりました。

来年度は駅前広場の工事も本格的に始まり、駅前広場のつかい方に関するルールづくりや場づくりの議論を進めると共に、実験的な試みをどんどん行っていければと考えています。



平成23年度顔プロ組織図 これが市民の手で描き換えられる？

駅前広場を 使いたい 人を つなげる

今回の育てる会議は、人のつながりから広場のつかい方を導くようなアイデアが多く出されました。最も具体的なアイデアが出たのは、駅前で開く市の可能性についてです。現代の商店街にはかつての市のような空間が消えてしまっており、商業と賑わいの両方が楽しめる市

に注目しているという考えが示される一方で、スーパーマーケットにはない、採れたてや手づくり、デザインといった価値観を市に持ち込めばよいのではというアイデアや、誰が作っているのが分かるのが良いといった市の魅力に関する事など、様々な意見など示されました。

市以外にも、広場で活動したい人が集まって、お互いの活動を公開し、高め合っていくような集まりがあれば良いという意見が出されると、それに対して、渡和教授からは、地縁を越えた個人個人の活動が集まってつくられる小さなコミュニティが、地域を元気にするという考

えを示されました。ある市民は育てる会議が、そういったコミュニティの受け皿になるのではと期待されていました。

他にも、中学生のプラスバンド部の演奏による駅前広場のオープニングイベントや、高校生の軽音楽部と北本の和太鼓とのコラボレーションによる演奏会を開いてみたらどうか、といった今年度のつかう会議を発展させたアイデアも出されました。

Event イベント 情報

4月29日(祝)

みどりのフェスティバル@子供公園

主催：総合公園指定管理者

5月13・14日(金・土)

あきんど市@東口駅前広場

主催：北本あきんど塾

5月15日(日)

北本手仕事市@マルシェ通り

主催：手仕事市実行委員会

協力：顔プロ

5月26日(木)

第1回広場を育てる会議

主催：顔プロ

*個々のイベントへの問合せは各主催者又はまちづくりキャラバンへ